

## 道路交通事故の事故統計と保険統計の融合利用に関する研究

主査 鹿島 茂（中央大学教授）

本プロジェクトは、現在道路上で発生している自動車交通に関連する事故実態を把握することが目的である。一般には、道路交通事故の発生件数および被害者数については、財団法人交通事故総合分析センターが管理するデータによる把握がなされており、また、事故に伴い発生する費用については、内閣府による定期的に実施されている推計が知られている。

今後の安全対策は、より高度でかつ効果の少ない対策を効率的に実施していくことが求められており、その意味で今後より詳細なデータベースが必要であるとの前提で上記のデータベースおよび推計を見ると、前者については、これまで人身事故のみしか取り扱っていないため、事故件数あるいはそれに伴い発生する直接的な金銭的がより大きい物的損失のみが発生する事故の発生実態が把握できないことが指摘できる。また、後者については、金額的に大きな影響を与える可能性のある支払意思額ベースでの人身事故の定量化については、現在議論が進んでいるものの、推計として計上する項目や推計の方法に課題が残されていると考える。

上記の認識の基、本プロジェクトでは、以下のことを実施した。

### (1) 保険関連統計を用いた事故件数および被害数の推計可能性の検討

損害保険料率算定機構が発行する「自動車保険の概況」の、自賠責保険および任意保険の支払件数および金額に関する統計を用いて死傷者数および事故件数の推計を試みた。

### (2) 事故件数の把握可能性の検討

近年事故を記録する装置であるドライブレコーダが事故件数の把握のための道具として期待されている。ドライブレコーダの特徴としては、事故1件1件を詳細に把握できることや事故には至らないが危険な状態である「ニアミス」の把握ができることがあげられる。これらの動向を把握するため、自動車技術会が作成したタクシー事業者を対象にデータを収集したデータベースに関するヒアリングを実施した。

### (3) 事故により発生している社会的費用の推計の課題

現状の推計の課題を研究会で整理した。課題の内、今年度は、安全技術の開発に関する費用の把握の可能性を把握することを対象として、技術投資への費用の把握の方法に関する研究者の知見やこれまでに取り組んでこられた安全対策の実態の把握を目的としたヒアリングを実施した。